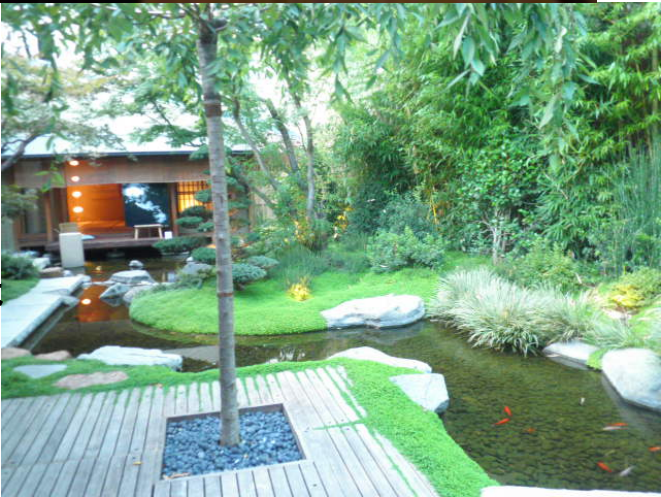




FÈRE財団「100の家を100の家族に」
石巻市復興支援チャリティ「Beauty for
Japan」が高田賢三氏の元邸宅で9月
13日開催された。約1100㎡の広大な
邸宅は開放され、訪れた約150人のフ
ランス人は日本庭園や邸内に飾られ
た生花、茶室で催された茶会など日
本文化を満喫した。このサロン左手には
室内プール、右手に日本庭園がある。
バステューユ近くにあるとは思えない
日本とフランスが融合した空間だ。





9月13日夜7時から三々五々集まった参加者は9時にサロンに集合。財団からの現状報告に続き、気仙沼の帆布前掛けをした私は、7月30日に訪れた気仙沼の状況と、6月11日にオープンした気仙沼・帆布バッグ店舗「縁」を紹介した。津波で破壊された重油基地から流れ出た重油による火災が12日間も続いた気仙沼が、5ヶ月以上も過ぎて尚、瓦礫の山ばかりの状況に復興の難しさと被災者の苦しい毎日を理解してもらえたようだ。この後、別室に展示された気仙沼・帆布バッグはアツと言う間に完売、気仙沼・帆布バッグがパリジャンの手に渡ったのだ。空のスーツケースで帰国できるのは嬉しい。



藍色の地に気仙沼の被災地名や気仙沼のシンボルでもあるカツオ、海猫、山ツツジ、黒松が白抜きで染められた帆布はフランス人にも気に入ってもらえた。30数点はアツと言う間に売れてしまい、買えなかった参加者からインターネットで買えないのか、送ってもらえないのかと質問攻めにあつた。残念ながら現在、数人の職人さんによる家内生産のため多くの商品販売や発送などの対応が不可能なことを説明したが、一日も早い気仙沼の復興を願わずにはいられない。